



2026年1月29日

各 位

会 社 名 アストマックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 本多 弘明
(東証スタンダード・コード 7162)
問合せ先 執行役員 西潟 しのぶ
電話 03-5447-8400

**2026年3月期第3四半期連結業績速報値と
2025年3月期第3四半期連結業績との差異見込みに関するお知らせ**

2026年3月期第3四半期の連結業績は、2026年2月2日(月)に開示の予定ですが、決算の概要がまとまりましたので、下記のとおり速報値としてお知らせいたします。なお、速報値につきましては、現時点で当社が合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は速報値と異なる可能性があります。

この結果を受け、2026年3月期第3四半期(2025年4月1日～2025年12月31日)と2025年3月期第3四半期(2024年4月1日～2024年12月31日)の業績に差異が生じる見込みとなりましたのでお知らせいたします。各セグメントの概要説明は、2月2日に開示する2026年3月期第3四半期決算短信および補足説明資料にてお知らせいたします。

記

1. 2026年3月期第3四半期連結業績速報値(2025年4月1日～2025年12月31日)

(単位:百万円)	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する四半期純利益
2026年3月期第3四半期 連結業績速報値	15,672	△526	△606	△512
2025年3月期第3四半期 連結業績(実績)	15,056	357	398	349
増減率(%)	4.1	-	-	-

※ 当第3四半期連結累計期間の営業収益における電力取引関連事業に係るヘッジ目的で行う電力先物取引による影響は以下のとおりです。

電力取引関連事業において、電力現物先渡取引の価格を電力先物取引を利用してヘッジする取引が存在しますが、電力現物先渡取引は受渡が完了した時点で損益を計上する一方、電力先物取引はデリバティブ取引として時価評価を行い損益を計上しているため、「ヘッジ対象取引の損益の計上」と「ヘッジ取引の損益の計上」には「計上時期の相違」が生じております。

当第3四半期連結累計期間においては、ヘッジ対象取引が当期の受渡にもかかわらず前期に計上されたヘッジ取引に係る損益と、ヘッジ対象取引が当第3四半期連結累計期間末を越えて受渡が行われるにもかかわらず当第3四半期連結累計期間に計上されたヘッジ取引の損益は差し引き▲102百万円であり、当第3四半期連結累計期間の損益を実質的に押し下げる要因となっております。

なお、前年同期間の当該損益は37百万円であり、前年同期間の損益を実質的に押し上げる要因になっておりました。

2. 2026年3月期第3四半期連結業績速報値と2025年3月期第3四半期連結業績との差異の理由

営業収益は電力取引関連事業における増収を背景に前年同期間比4.1%増加の増収となりました。一方、損益はディーリング事業における事業撤退に向けた事業規模縮小と裁定取引の取引対象商品の大幅な価格変動等によるネガティブな影響が大きく、全体として営業損失、経常損失が拡大しました。

なお、非上場有価証券売却による146百万円の特別利益および電力取引関連事業の取引先が民事再生手続きに移行したことに伴う38百万円の特別損失等を計上したことにより、親会社株主に帰属する四半期純損失は512百万円となりました。

以上